

・自分がコーチの時はあれ、なんか話を別の方向に持っていきたいのに「何か」が足りなくてできないな、みたいな感覚と戦いながらやっていた。感想戦で「クライアントさんが何をやりたいのかが見えなかった」というコメントをいただいて、それだという感覚と、私が最近怖くて失っていたものだな、と思ったものでした。

また、冒頭でシェアがあった事例については現在進行形で勤めている会社でも起こっていた。

アピールしたいことがあって(例えば仕事が大変だとか)、それに対して文句を言って何か理解してほしい、というところまで一緒。

わかって欲しいものもあるんだろうな、と思うのだけど、そこにみんな気にかけている余裕がない、という状態。

それに対して「自分で気づくしかないという回答だった。そう言われると思えば当たるところしかないのだけれど、何か関わることでうまく動くものがあるかもしれない、という希望？目を逸らしている？みたいなことがあって、でもどう動けばいいのかについては答えが出ていない。

でも自分の希望を言うだけじゃ頑なになるのは確かにそうで、陽子さんから出てきた答えは確かに一つのやり方だと思った。他には何かあるだろうか。

自分に自信がないので限界を超えて頑張る話については、こ

れは好き, これは嫌い, みたいな素朴な感情を我慢していると
どうなるかみたいな実例を見たように感じた.

お互いに想定している行動がクライアントとネタになっている人
とでずれていたのも着眼すべき点だったと後から思った(気が
付かなかった). 自分も陥りやすい状態なので, どうやって避け
ようか, このコーチング練習会後のやりとりも含めて考えた
と思う.

(30代女性 千葉県)